



図4長崎市大橋地区周辺

家野町の城の越から大橋までの街道も、明治以降の開発ですっかりその景観が変わってしまい、その復元は困難なようです。街道は、城の越から当時は一面の水田であった現在の長崎大学の構内を通り大橋に出ました。かつてこの付近には、キリシタンの集落があり、1603年（慶長8）にはサンタ・クララの教会も建てられました。



図5長崎市坂本 国際墓地周辺

平野町の宿ン坂を下ると、当時は船着場があり、舟でも長崎に行くことができました。

この宿ン坂から長崎大学歯学部の前門を経て山王神社、さらに国際墓地に続く道路がかつての浦上街道でした。二十六聖人は、浦上の病院でしばらく休んでいますが、この病院の場所は不明で、現在の歯学部から国際墓地にいたるところかと推定されています。



図6長崎市銭座地区周辺

緑町の坂道を下り銭座小学校に出ると、街道は小学校の正門から運動場に沿って行き、天神町から西坂へと向かいます。ケンペルは、「江戸参府紀行」のなかで、「行くに骨の折れる高い石道を過ぎて、市外の馬籠村に到着したり」と記述していますが、街道は、上がったたり下がったりする坂道と、いくつも曲がりくねった道路の連続でした。